言語学・短歌

新村出（しんむらいずる）

山口市

（1876～1967）

重山文庫 所蔵

『広辞苑』の編者として著名な新村出は、現在の山口市道場門前に生まれた。東京帝国大学卒業後、京都帝国大学で言語学講座を担任。言語学の発展に寄与した功績により文化勲章を授与された。

言語学研究の傍ら、短歌にも造詣が深く、歌集『重山集』や『牡丹の園』、『白芙蓉』などがある。最晩年の十年間の歌だけでも数万首にのぼると言われ、古今を師とし、独歩、独楽の歌の道を歩んだ。常日頃愛でた草花や星などの自然界、妻や子、孫を主な歌の題材とした。また、随筆にも非凡なものがあり、星座に関する随筆や語源に関する随筆など三十点が『現代日本文學全集』（改造社）に収録されている。

（安光裕子）

【主な著作】

『広辞苑』（岩波書店、昭和30年）

『白芙蓉』遺歌集（初音書房、昭和43年）

『新村出全集』全十五巻（筑摩書房、昭和46～48年）